

の確かな専門性と豊かな識見を持ってして、それぞれの教育現場で実践し成果となつて表れますことから、授業の研究や校内・校外での各種研修会への派遣や積極的な参加を促すとともに、小・中学校における遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した学びはこれから不可欠であることから、教職員のICT活用指導力向上のため、研修機会の充実を図ります。

また、鹿部町教育研究所による研究・研修の実施と自主的に組織する校長会や教頭会の活動は重要であるため、引き続き支援し、鹿部町の教育の向上に努めます。

特に、鹿部町教育研究所では現在、『社会に開かれた教育課程』の実現を目指した幼小中の連携」を重点目標として、幼小中の連

携・一貫教育を見据えた活動の推進や学力向上の充実を図る研究の推進等について調査・研究するとともに、実効性の高い取組みを推進しています。

教育委員会としまして、鹿部町教育研究所の取組等について検証・検討を重ね、現在実施しています幼小、小中といった学校間の円滑な接続や教科等の横断的な学習を重視し、より深い連携を継続しながら、鹿部町に相応しい学校の形や在り方についてしっかりと検討します。

各学校の施設の整備については、中学校でアスベスト含有断熱材を使用している煙突の改修工事を実施するとともに、小・中学校校

施設及び設備等の整備

舎では、経年による不具合箇所の修繕を行います。

また、幼稚園については、園舎の老朽化が顕著でありますので、民設民営の「公私連携幼保連携型認定こども園」で整備する方向で、今後建設予定地等について町部局及び議員皆様と協議しながら早急に建替えを進めたいと考えています。

学校給食

学校給食については、子どもたちにとって身体の成長を促すばかりではなく、学校生活において楽しみな時間であると認識していることから、引き続き地場産

食材の購入費用について一部公費負担をして、安心・安全で美味しい給食を提供します。さらには、今後も引き続き衛生面等において

危機管理意識をもって運営管理するとともに、令和3年度は老朽化した調理用備品の更新を図ります。

社会教育の推進

次に、社会教育の推進について申し上げます。急激な人口減少や少子高齢化を要因とするコミュニケーションの希薄化が全国的な課題となる中、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を進める社会教育の役割は、重要度を増しています。社会教育事業を通して人が持つ能力や可能性を高め、急速に変化している社会に対応できる知識や能力を身に付けることにより、その力を地域の課題解決や新たな活動につなげるとともに、積極的に地域活動に参画することができ

よう、幼児から高齢者までのニーズに対応した学習機会の提供と学習の成果が地域活動で生かされる環境づくりに努めます。

幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であることから、子どもの成長を保護者が見直す、見つめる機会を設けるため、「家庭教育学級事業」を実施し、子どもの生活習慣、自立心の育成、心身の調和が取れた発達を促します。

また、子どもの健やかな成長を願い、親子が絵本を介して心触れ合うきっかけづくりとなる「乳幼児ブックスタート事業」について引き続き支援します。

小・中学生を対象とした「しかべっ子教室」では、思いやりのある豊かな心を育むと同時に、集団生活のルールを学び、前向きに生